

2 日目

第6学年2組 社会科学学習指導案

平成28年2月4日（木）公開授業Ⅱ
 平成28年2月5日（金）公開授業Ⅰ
 会場 3階-④
 授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
 教諭 大矢 和憲

1 単元名 よりよい社会をつくる - 人々の願いと政治 -

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領解説社会編6学年の内容(2)のアに準拠して設定した。
 本単元の目標は次のとおりである。

人々の願いやよりよい社会を実現している政治の働きや仕組みについて、具体的に調べたり考えたりすることを通して、我が国における民主政治の意味をとらえることができる。

はじめに、歴史学習との接続と本単元の学習内容を考慮し、本単元前に内容(2)のイについて学習させる。こうすることで、子どもは、これまでの我が国の歴史と現在の政治とを比較したり、日本国憲法と関連付けたりして政治の働きについて学習することができる。また、政治の働きについて考える際に重要になる税金の役割についても事前に学習させておく。

本単元では、「政治は主権者である多くの人々の願いやよりよい社会を実現するために行われている」という**民主政治の意味をとらえる子ども**を目指す。

この意味を実感を伴ってとらえられるようにするために、新潟市アイスアリーナ（以下、アイスアリーナ）建設の事例と、こども医療費助成制度（以下、医療費助成）の事例を取り上げる。

アイスアリーナ建設は、主権者である市民の願いが政治によって実現した成功事例である。

平成15年に新潟市からアイススケート場が無くなった。当時「公設は難しい」としていた市を動かしたのは、「市にスケート場をつくる会」を中心とした多くの市民だった。市民による請願書や約13万5千人もの署名の提出、市議会の請願採択、市の調査や立案といった過程を経て、平成26年に約22億3千万円の税金を使って建設された。利用したことのあるアイスアリーナ建設までの一連の過程を具体的に調べて明らかにすることで、人々の願いを実現する政治の仕組みと意味を、国民主権と関連付けてとらえることができる。

また、こども医療費助成は、多くの子どもが助成対象期間の拡大を願う事例である。

多くの自治体で実施されている子どもの医療費助成であるが、助成対象期間等は自治体によって異なる。新潟市では、市民アンケート等の意見を基に、子育て支援の中心的な取組としてこれまで年々医療費助成の対象期間や条件を拡大してきた。平成27年度の当初予算は約17億8千万円である。現在は平成27年9月に助成対象期間を拡大し、入院は高校卒業まで1200円/日、通院は小学校卒業まで530円/日の一部負担金（調剤費含む）で医療機関を受診できる。しかし、高校生までの子どもが3人以上いる場合は、入院も通院も高校卒業までが医療費助成の対象となっている。この違いから、子どもは助成対象期間の拡大を願うが、それができない現実がある。

市や市議会は、限られた予算の中でより多くの市民の願いを実現したりくらしをよりよくしたりするための様々な取組と税金の使い方を考えて決めている。自分の願いがすぐには実現できない目的や要因を考えることで、人々の様々な願いとよりよい社会を実現する政治の働きと意味を、税金の使われ方と関連付けてとらえることができる。

このように、国民の願いを実現し、国民生活の安定と向上を図っている政治の働きや仕組みを、国民主権や税金の使われ方と関連付けて学ぶことができる単元である。

3 本単元で目指す姿

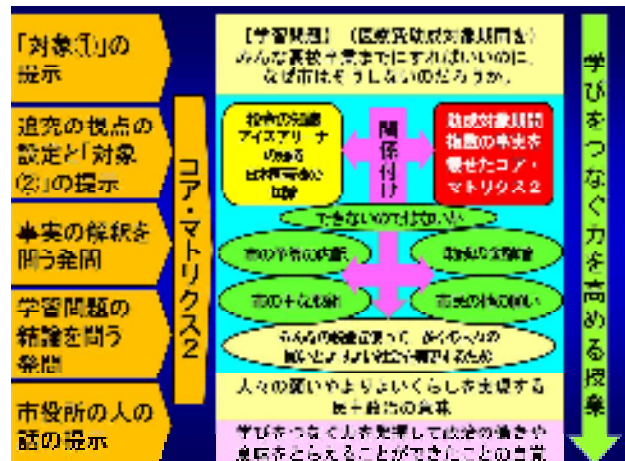
(1) 「中核的な学習内容」

「政治は主権者である多くの人々の願いやよりよい社会を実現するために行われている」という民主政治の意味

(2) 「学びをつなぐ力」

① 関係付けるすべを用いて、既有事項から設定した追究の視点を基に、学習問題の解決につながる事実を調べる力

② 比較するすべと関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる事実と解釈を結び付けて、事象の目的や要因を考える力



(3) 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚

「学びをつなぐ力」を発揮して学習したことで、政治の働きや意味をとらえることができたという自覚

4 指導の構想

子どもは、アイスアリーナ建設の事例から、人々の願いが実現するまでの政治の仕組みと「政治は多くの人々の願いを実現するために行われている」という意味を国民主権と関連付けてとらえている。しかし、人々の願いがすべて願った通りに実現されるわけではない。政治は、様々な人々の願いを基に、みんなの税金を使って多くの人々の願いやよりよい社会を実現しようと考えて行われている。自己中心的に考えるのではなく、政治の意味を広い視野から考える必要がある。そのために、以下のように働き掛ける。

働き掛け1 (2日目)

平成24年9月からの助成対象期間と、平成27年9月から現在の助成対象期間を提示し、気付いたこと、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。

市が医療費の助成対象期間を拡大したが、助成対象期間が同じではない目的や要因について追究する学習問題を設定させるための働き掛けである。まず、子どもに助成受給者証を提示し、医療費助成について説明する。次に、医療費助成に約17億8千万円（一人あたり約1万5千円）の税金が使われていることを知らせる。子どもは比較するすべを用いて、アイスアリーナ建設にかかった費用や学校の建設にかかる費用などと比べ、多額の税金が使われていることに気付く。最後に、助成対象期間に着目させ、平成24年9月からの助成対象期間（入院：中3／通院：小3）と、平成27年9月から現在の助成対象期間（入院：高3／通院：小6※高校3年生までの子どもが3人以上の場合は高校卒業まで）を提示する。これが本時の「対象①」である。

子どもは、助成対象期間がさらに拡大されてよかったと感じる。一方で、子どもが3人以上いる場合とそうでない場合とで助成対象期間が違うことに気付き、「自分は3人兄弟だからうれしい」「自分は兄弟がいないから、4月から助成されないで困る」などと、自分事として問題意識を感じる。このような子どもに、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは、「みんな高校卒業までにすればいいのに、なぜ市はそうしないのだろうか」と、市が助成対象期間を同じにしない目的や要因について追究する学習問題を設定する。

働き掛け2 (2日目)

子どもの予想から追究の視点を設定し、市の予算の内訳、主な事業と予算、助成対象期間を同じにした場合の試算額、市民の要望を載せた「コア・マトリクス2」を提示する。

既有事項を基に、学習問題の解決につながる事実を調べることができるようにするための働き掛けである。まず、学習問題についての予想を発表させる。子どもは、既習の税金の知識やアイスアリーナ建設の知識、基本的人権の知識から「みんな高校卒業までにすると、もっとたくさんお金がかかるからできないのではないか」「市民の他の願いを実現するためにできないのではないかな」などと予想する。下線は、学習問題の解決と本單元における中核的な学習内容につながる重要な視点である。これらを取り上げ、追究の視点として板書する。しかし、子どもは助成対象期間を同じにした場合どれくらいのお金が必要なのかや、他の願いがどのような願いなのかなど、具体的な事実が分からないため情報不足を感じ、考えるために必要な資料を求める。

このような子どもに、市の予算の内訳、主な事業と予算、助成対象期間を同じにした場合の試算額、市民の要望を載せた「コア・マトリクス2」（「対象②」※右下）を提示する。

働き掛け3 (2日目)

それぞれの事実から言えること（事実の解釈）を問い、小グループで「コア・マトリクス2」のマトリクス部分について話し合わせる。

根拠となる複数の事実を結び付けて学習問題について考え、みんなの税金で様々な願いやよりよい社会を実現する政治の働きに気付くことができるようにするための働き掛けである。

まず「対象②」を一人一人に配付し、それぞれの事実から言えること（事実の解釈）を問う。そして、小グループで「コア・マトリクス2」のマトリクス部分について話し合わせる。子どもは関係付けるすべを用いて、既有事項から設定した追究の視点を基に学習問題の解決につながる事実を調べ、それぞれの事実から言えること（事実の解釈）を考える。



この解釈が、学習問題の解決に必要な情報となる。**（「学びをつなぐ力」①）**

次に事実の解釈を発表させ、学級全体の「コア・マトリクス2」に書き込んでいく。子どもは、比較するすべと関係付けるすべを用いて、友だちの考えを補ったり、妥当かどうか判断したりすることを通して、市が助成対象期間を同じにできない目的や要因に気づき始める。

働き掛け4（2日目）

学習問題についての結論を問い、「コア・マトリクス2」のコア部分を考えさせる。

事実の解釈を総合して考える思考を促し、政治の働きと意味をとらえさせるための働き掛けである。「一体なぜ、市は助成対象期間をみんな高校卒業までにしないのか」と、学習問題についての結論を問い、「コア・マトリクス2」のコア部分に考え（結論）を記述させる。その後、学級全体で考えを交流させる。子どもは、比較するすべと関係付けるすべを用いて、マトリクス部分の解釈を総合して考え、「限られた予算で様々な人々の願いを実現したり、市をよりよくなりするためには医療費助成ばかりにお金をかけられないから、一律に助成対象期間を高校卒業までにできないんだ」などと考える**（「学びをつなぐ力」②）**。しかし、本当にそうなのか納得できない子どももいる。

働き掛け5（2日目）

市役所「こども未来課」の方の話を提示する。

政治の働きと意味や難しさをとらえさせるための働き掛けである。実際に医療費助成に携わっている「こども未来課」の方の話を提示する（VTR）。子どもは、市民から様々な要望があることや、それらを基に総合的・長期的に考えて取組の計画を立てていること、様々な課題があり、取組や予算を考えることは難しいことなど、実際の政治の考え方や難しさを知る。こうして子どもは、「市は限られた予算の中で、多くの人々の様々な願いを実現し、よりよい市にするための取組と税金の使い方を考えて決めている。だからすべての願いがすぐに実現できるわけではないんだ。政治は、みんなの税金を使って多くの人々の願いやよりよい社会を実現するために行われていることが分かった」などと、**人々の様々な願いとよりよい社会を実現する政治の働きと意味を、税金の使われ方と関連付けてとらえる子ども**になる。

また、「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促すために、「社会科日記」に学習のまとめを書かせる。ここではふり返りの観点として、①今日の学習で分かったこと・考えたこと・思ったことと、②考え方のコツを書くように指導する。①②の観点でふり返らせることで、子どもは、比べて・つなげて・まとめてなどと、自分がどのように考えてどのようなことが分かったのかを説明する。この姿が「学びをつなぐ力」の有用性を自覚した姿である。

5 指導計画 全10時間（30Q） 別紙「指導計画」参照

6 本時の構想<第2日目> 5/10時間（45分授業）

(1) ねらい

助成対象期間が同じでない目的や要因を考えることで、人々の様々な願いとよりよい社会を実現する政治の働きと意味を、税金の使われ方と関連付けてとらえることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆つなぐ力	教師の働き掛け
<p>1 学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知ってる！見たことある！それがあると医療費が安くなるんだよ。薬はただになる。 ・これいいね。すごく助かる。 ・じゃあ、残りの1500円くらいはどうするの？誰かが払ってるの？ ・市がお金を出してくれているんだよね。 ・すごいねありがたい。うれしい。 ・ただだったらもっといいよね。 ・でもさあ、兄弟の人数によって違うんだよ。 ・入院は高校3年生まで、通院は小学校6年生までと書いてある。 ・ということは、残り2ヵ月だ。困る。もっと伸ばしてほしい。 ・ちょっと待って、子ども3人以上の世帯は高校3年生までって書いてある。 ・やった～僕の家は3人兄弟だからまだ大丈夫だ。 ・え～っそれって不公平だよ。おかしいよ。 ・入院は同じだからいいけれど、通院の助成がなんで違うの？ ・みんな高校卒業までにしてほしい。 	<p>○「対象①」を提示し、気付いたこと、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。【働き掛け1】</p> <p>※医療費助成受給者証を提示し、制度の内容について次のことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費が上限530円になること。 ・通常1回の受診で2000円程度かかること。 ・市が差額分を助成していること。 ・医療費助成に使われている税金の額。 <p>※右下の対象年齢をクローズアップする。</p> <p>○指示「気付いたことを発表しましょう」</p> <p>※「対象①」を提示する。</p> <p>○説明「平成24年9月から入院：中3まで／通院：小3まででした。平成27年9月から現在の助成対象期間（入院：高3／通院：小6※高校3年生までの子どもが3人以上の場合は高校卒業まで）になりました。」</p> <p>○発問「みんなは何人兄弟ですか」</p> <p>○発問「この対象期間についてどう思いますか。どうしてほしいですか」</p> <p>※市民から寄せられている意見を提示する。</p>

◎学習問題「みんな高校卒業までにすればいいのに、なぜ市はそうしないのだろうか」

2 予想を発表し、追究の視点を見いだす

- ・みんなにするとすごくお金がかかるからできないんじゃないか。
- ・いろいろなことに税金を使っているから、こればかりに使えるからじゃないか。
- ・他の願いも実現しなければいけないからじゃないか。
- ・みんな高校卒業までにするとどれくらいお金がかかるのか知りたい。
- ・税金が何にどれくらい使われているか分かる資料がほしい。
- ・市の考えが分かる資料がほしい。

3 小グループで、資料の事実から言えることを話し合う。

- ・税金を市のいろいろなことに使っている。
- ・みんな高校3年生までにするとさらに5億円もかかって、医療費助成だけにお金がすごくかかる。アイスアリーナと同じくらい。
- ・いろいろな人の意見がある。
- ・市はいろいろな人の願いを叶えようとしているんだよ。
- ・だから一つのことばかりにお金をかけられないんじゃないかな。

☆下線部：つなぐ力①を発揮している姿

4 学習問題の結論を考える。

- ・コア部分はマトリクスにあることを総合して考えればいい。
- ・限られた予算でいろいろな願いを実現したり、市をよりよくしたりするためには医療費助成ばかりにお金をかけられない。だから、助成対象期間をみんな高校卒業までにできないんだと思う。
- ・それはそうだけど、だったらみんなが中学卒業までにするとかできなかったのかな。

☆下線部：つなぐ力②を発揮している姿

5 政治の働きと意味をとらえる。

- ・何を考えて計画しているのか確かめたい。
- ・なるほど。市役所の人もたいへんだね。
- ・市民や市のことを総合的に考えて計画しているんだね。難しいことなんだね。
- ・市は限られた予算の中で、多くの人々の様々な願いを実現し、よりよい市にするための取組と税金の使い方を考えて決めている。だからすべての願いがすぐに実現できるわけではないんだ。政治は、みんなの税金を使って多くの人々の願いやよりよい社会を実現するために行われていることが分かった。
- ・今日は資料から言えることを、比べたり、つなげたり、まとめたりして考えたら、学習問題を解決できた。

- 説明「みんなと同じように思っている人も当然いるよね」
- 指示「疑問に思うことを発表しましょう」
- 発問「みんなで考えたいことはどんなことですか」

○子どもの予想から追究の視点を設定し、「対象②」を提示する。【働き掛け2】

- 指示「学習問題について、予想を発表しましょう」
- ※追究の視点になることは色チョークで書く
- 発問「学習問題について考えるためには、どんなことが分かればいいですか。どんな資料が必要ですか」
- ※「対象②」を一人一人に配付する。

○事実の解釈を問い、小グループで「コア・マトリクス2」のマトリクス部分について話し合わせる。【働き掛け3】

- 発問「マトリクス部分の資料から、どのようない言えませんか。資料から言えることを班で話し合っ、マトリクスに書きましょう」
- 補助発問：「比べたりつなげたりして考えたときは矢印と矢印の意味を書きましょう」
- 指示「それでは、分かった事実とそこから言えることを発表しましょう」
- ※補助発問「～さんは、このことを比べて考えたのですね」「〇〇さんの考えに納得ですか。付け足しはありますか」
- ※全体の「コア・マトリクス2」に事実の解釈を書き込んでいく。

○学習問題についての結論を問い、「コア・マトリクス2」のコア部分を考えさせる。【働き掛け4】

- 発問「それでは一体なぜ、市は助成対象期間をみんな高校卒業までにしないのでしょうか。コア部分に書いてみましょう」
- 指示「考えを発表しましょう」
- ※補助発問「～さんは、このことを比べて考えたのですね」「〇〇さんの考えに納得ですか。付け足しはありますか」

○市役所「こども未来課」の方の話を提示する。【働き掛け5】

- 説明「納得できる人、できない人というようだけれど、実際に計画や予算案を考えている市役所の方の話聞いてみませんか」
- ※「こども未来課」の方の話（VTR）を提示する。
- 指示「最後に、学習のまとめを分かったこと・考えたこと・思ったことを入れて、社会科日記に書きましょう」「考え方のコツも書きましょう」

(3) 評価

人々の様々な願いとよりよい社会を実現する政治の働きと意味を、税金の使われ方と関連付けてとらえているか。また、「学びをつなぐ力」を発揮、自覚しているかを、発言及び「社会科日記」の記述から判断する。